



ラーニング・アドバイザーがおすすめる…

# 教員採用試験の勉強の仕方

こんにちは。

「教育学部に来てみたものの、どうやったら教員になれるのか」  
「一体、何を勉強すればいいのか」

教員採用試験について右も左もわからない方にむけて、  
図書館の本でできる簡単な勉強法をご紹介します。

発行：2019.1

和歌山大学図書館

作成：ラーニング・アドバイザー  
(教育学研究科)

# 1. 目次

1P はじめに

2P 目次

3P 「知る」

4P 「勉強する」

5P 「経験する」

6・7P 和歌山大学利用する

8P まとめ

## 2.「知る」

実はこのプロセスが、最も大切だといっても過言ではありません。

### ★教員採用試験は自治体でこうも違う。

教員採用試験は、各自治体で行われます。

そして、その採用試験の内容は、自治体ごとでかなり異なってきます。大阪府と和歌山県のように隣り合っていないくてもこうも異なります。

大阪府	和歌山
1 次試験 教職教養、 思考力・判断力を問う問題 (文章理解、判断推理、資料解釈)	1 次試験 専門 (各教科)
2 次試験 面接	面接
3 次試験 専門 (各教科)	2 次試験 教職教養
模擬授業	面接 (模擬授業)
	小論文

自分が受けようとしている、自治体の試験内容によっては、せっかく勉強したことが無駄になることがあります。十分に調べましょう。

### ★調べるために、手段は選ばない

では、実際に調べるのにどのような方法があるのか？

実は、教員採用試験の内容を知る方法はいくつも存在します。

・各自治体の説明会 ・自治体のHP ・先輩、友人、先生に尋ねる etc.  
どれが、一番オススメか？

全部です！

次のページで、それぞれについて紹介していきます。

### ○自治体の説明会、HP

最も信頼できる情報源です。なんたって、テスト作成者ですから。友達に試験内容を聞いて、損をしたという人を何人も見てきました。そんなときに友達を責めても、失った時間は戻ってきません。自分で責任を持って調べましょう。

### ○先輩・友人・先生に尋ねる

先程、友達に尋ねるデメリット記載しましたが、実はメリットも大量にあります。自治体やHPでは、試験内容がわかっても、出題頻度や難易度までは、自治体は教えてくれません。試験の傾向と対策について、豊富な知識と経験を彼らは持っています。それを利用しない手はないでしょう。

**☆自分の受ける自治体の教員最小試験に関することは、徹底的に調べて、効率的に勉強を行いましょう。**

## 3. 勉強する

自治体について十分に調べたら（調べることと並行して）、実際に勉強を開始しましょう。

### ★あと何日でテストなのか考える。

よく「なんの勉強をしたらいいですか？」という質問を耳にしますが、テストまでどれくらいの期間があって、その人がどのくらいできるのかわからなければアドバイスできません。まずは、自分の現在位置を知りましょう。テストまであと、何日残っていて、あとどのくらい勉強する量が残っているのかを知りましょう。

### ★面接は勉強しなければならない。

「面接は勉強することがない」「面接はぶっつけ本番でいける」という声を聞くことがあります。

とんでもない！！面接こそ、勉強しなければなりません。

どういう教員が求められていて、どういう質問が来るのか、などを事前に知っておかなければ、面接のときに良い答えをすることはできません。

15分程度で面接するところが多いですが、言い換えるなら、採用のプロから見れば、15分見れば、教員にふさわしいか判断できるということです。

なので、少ない時間で自分を最大限アピールできるように、練習しましょう。

キャリア支援室、友達、先生、先輩、などに見てもらいましょう  
教員採用試験の面接は一発勝負なので、なにより練習が必要なのです。

### ★勉強を始めたら愚直に…。

勉強を始めたら、

「本当にこの方法でいいのか」「もっといい参考書はないのか」

など、いろいろ不安がよぎってきます。

もちろん、勉強方法を見直すことは大切なことですが、考えすぎてもいけません。それこそ、参考書選びに時間をじっくりかけるよりも、持っている参考書で、がむしゃらに勉強するほうが良いときがあります。

愚直に、勉強しましょう。

## 4. 経験する

### ★今しかできないことを！

さきほどまでは、勉強することを述べましたが、勉強だけが全てではありません。教員採用試験では、最低限の勉強の他に、プラス $\alpha$ としての、能力を求められています。

それに、教員採用試験を突破して、いよいよ教壇に立ったときに、自分の専門の勉強しか話せないと、幅の狭い教員だな、と思われてしまうかもしれません。

そういう意味では、大学生活4年間の経験すべてが、教員としての武器になります。

ボランティア、部活、サークル、アルバイト、旅行、研究、勉強…  
今できることから、今しかできないことを経験しましょう。

## 5. 和歌山大学を利用する

### ★迷ったら、借りてみる

「教員採用試験には、どんな問題が出るのか」「どんな対策をすればいいのか」そう考えたなら、まずは本を借りてみるのはいかがでしょうか。

「教員採用試験」とOPACに検索するだけでいろいろな本がヒットします。雰囲気味わうためにも、どんな問題が出るのか知るためにも本を借りてみるのもいいでしょう。

### おすすめの書籍

『教員採用試験参考書 教職教養』東京アカデミー

(配架場所 1F・学修・キャリア支援資料 [2015年度] 1 教育原理・教育史 373.7||O||2015-1, 1000419438)

(配架場所 1F・学修・キャリア支援資料 [2015年度] 2 教育心理・教育法規 373.7||O||2015-2, 1000419438)

→ほとんど文章で書かれているので、文章を読むのが得意な人におすすめ。多くの情報が載っていて、ほとんどの問題を網羅しています。

『教員採用試験 教職教養 ラクラクマスター』

(配架場所 1F・学修・キャリア支援資料 2015年度版 373.7||Si||2015, 1000419420)

→できるだけ、簡潔に重要なことを載せている参考書です。サイズも小さいので電車などのスキマ時間でも勉強することができます。

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』文部科学省 [編]

(配架場所:2F・開架図書 総則編 375.1||Mo||2017, 1000441241)

→教員になるにあたって、自分の思う教育観だけを実践することはできません。

どういう教育が求められているのか・どういう教育をすべきなのか、確認しておきましょう。

『近現代史の授業づくり』歴史教育者協議会編

(2F・開架図書 日本史編 375.324||Re,1000108088)

→模擬授業を要求される自治体はかなり多く存在します。

授業はなかなか一人では作りにくいものです。参考にしてみましよう。

(この本は、高校社会用です。自分の教科にあった本を探してみてください)

## ★面接練習に図書館！？

面接を練習するにあたって、必要な空間は、「なるべく広いということ」「声を出しても周りに迷惑がかからないこと」です。

そんな夢のような空間が図書館には存在します。

「グループ学習室」や「メディアルーム」と呼ばれている場所です。

ここは、個室になっていて、面接の入室から退室までをシミュレーションできます。

グループ学習室は3人からメディアルームは2人から借りることができます。

友人などと、面接の本格的な練習をしてみたいはいかがでしょうか

## ★集団で勉強する

教育界のことなどは、一人では回答がわからないときがあります。そのために集団で勉強することは、みんなで相談できるという利点があります。

そんなときに、図書館のラーニングcommonsを利用してみるのもひとつの作戦です！！



マルチルーム



グループ学習室



ラーニングcommons



## 6.まとめ

教員採用試験は合格することがとてもむずかしい試験です。  
合格するためには、いろいろな人脈といろいろなシステムを利用することが必要です。

人脈の一つとして、ラーニング・アドバイザーを訪ねてみましょう！

教育学研究科であれば、教員採用試験を経験しています。  
そういう人が座っているときに、質問をいただければ、全力でお答えします。

システムの一つとして、和歌山大学図書館を！  
和歌山大学図書館は、色々な取り組みやシステムがあります。  
利用してみてはいかがでしょうか。

最後に、  
教員採用試験はゴールではなく通過点です。

合格した先のビジョンまで見据える必要があります。

「どんな教員になりたいのか」「何のために教員になるのか」「教員になったら何をしたいのか」

そういう視野をもった人が、また教員採用試験に受かる、といったように循環しているのではないのでしょうか。

### ★本文中で紹介されている図書の探し方★

和歌山大学附属図書館トップページのOPAC 検索窓に、  
10桁の書誌 ID を入力して検索してください。

<https://www.wakayama-u.ac.jp/lib/> 和歌山大学図書館

